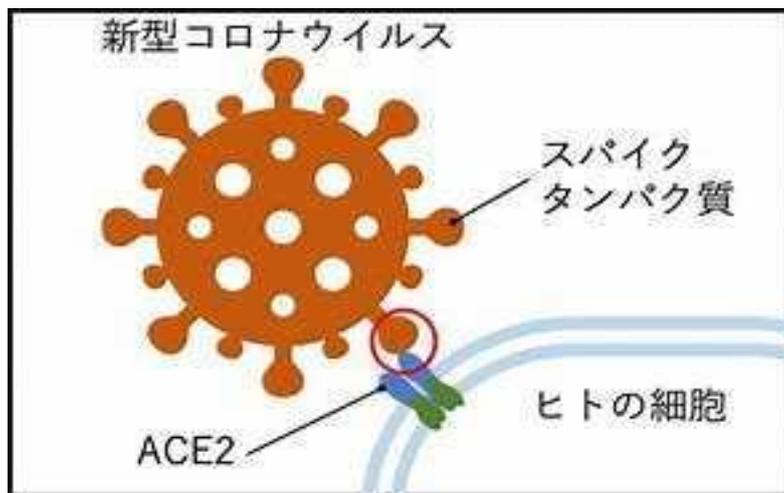


## 新型コロナワクチンの「危険性」は？ その2

前回は「ワクチン接種による長期的な影響」について「断定できない」という観点から慎重な情報収集の必要性を訴えましたが、むしろ現在、「短期的な危険性」を裏付ける研究結果が明らかになっています。

様々な症例から明らかのように、新型コロナウイルス (Covid-19) は肺炎だけでなく血管障害を引き起こします。

その原因について2021年の4月30日に米国のソーク研究所がカリフォルニア大学・サンディエゴ校 (UCSD) との協同研究の成果を公表しました。それは、新型コロナウイルスのスパイクたんぱく質そのものが細胞を傷つけるとする報告です。



同研究所は、新型コロナウイルスの外側を構成する「スパイクたんぱく質」だけを使った疑似ウイルスをマウスに感染させる実験を行ったのですが、その結果、肺動脈の細胞に炎症が発生したというのです。さらに炎症の原因がミトコンドリアの破損であることも再現実験で判明したとのこと。

そのことと新型コロナウイルスのワクチンの問題点は、どう関係するのでしょうか。このたび緊急に開発・製造されたワクチンはそのスパイクたんぱく質を創り出すのです。当然、ワクチンを接種すれば、血管を傷つける危険性があります。

mRNA ワクチンは、遺伝情報を入れることで、新型コロナウイルスと同様のスパイクたんぱく質を「製造」します。ワクチンの生み出したスパイクたんぱく質は全身に流れ、血管を傷つける結果、血栓なども生じやすくなるのです。

2021年6月25日現在で、日本国内のワクチン接種後の死亡事例は高齢者ではない医療従事者6人も含めて356人にのぼっています。〔米国で4434人 (CDC)、英国で1047人、ヨーロッパ全体で8430人が死亡〕

日本における死亡事例 (すでに公表された85人分) をみても、脳卒中、心臓発作、血栓などの血管の損傷・問題に関連する事例が極めて多いです。新型コロナワクチン接種との関連性

は大部分「評価不能」「関連なし」とされていますが、米国のソーグ研究所が公表した実験結果を踏まえると「関連する可能性が極めて高い」と評価すべきではないでしょうか。

これは、私個人の感想・見解といったものではありません。例えば[こちらの記事](#)は「あるクリニックの公式HP」で同研究所の論文を踏まえた「見解」を公開したものです。

[「コビットワクチンに使用されているスパイクタンパクが脳卒中、心臓発作、血栓の原因になるとの科学的研究結果が発表されました。 - ごとう整形外科 / 手外科クリニック」](#)

のみならず、国内の医師ら450人がワクチン接種中止を求めて嘆願書を提出したということです。河野太郎大臣は「医師免許を持った人がデマを流している」と主張しているようですが、医学について素人の大臣と科学的研究結果をもとに危険性を指摘する医師の見解、どちらを重く見るべきか、明らかではないでしょうか。

もっとも、ワクチンを接種しても重篤な結果をうまなかった人のほうが圧倒的に多いではないか、という声は当然あるでしょう。[上記クリニックの医師によれば「各人がもともと持っている自然免疫力がスパイクたんぱく質を攻撃し、その生み出す害を防いでいるのだ」と](#)いうことです。十分に納得のいく説明だと考えますが…。

## 国内の医師ら450人がワクチン接種中止を求めて嘆願書を提出 - サンスポ (sanspo.com)

新型コロナウイルスワクチンの安全性に懸念を訴える全国の医師ら計450人が24日、連名で接種中止を求める嘆願書を厚生労働省に提出した。

嘆願書に同意したのは国内の医師390人と地方議員60人で、発起人の高橋徳・米ウイスコンシン医科大名誉教授(クリニック徳院長)は同日午後に国会内で会見。

「死亡率が非常に低く、感染者の80%が軽症にもかかわらず、安全性もまだ分かっていない遺伝子ワクチンを国民全員に接種させる必要があるのか疑問だ」と説明。

出席した他の医師からも「治験が終わっていない」「接種後に少なくとも356人の方が亡くなっている」などの発言が相次いだ。

この日は河野太郎ワクチン担当相が自身のブログを更新し、ワクチン接種を巡って「医師免許を持っているにもかかわらず、デマを流す人もいます」と批判。

「長期的な安全性がわからない」などの意見も具体例に挙げたが、高橋氏は「…の出所は厚生労働省のホームページ」と話し、他の医師からも「大臣がデマだと言い切る根拠は何か」と驚きの声が上がった。